

事業の実績	<p>1. ボランティアセンター学習環境整備について</p> <p>ワークショップ等アクティブラーニングを目的としたセミナー開催のためのプロジェクタおよびホワイトボード（スクリーン兼用）を購入、環境の整備に努めた。</p> <p>2. さすけなぶるワークショップの開催</p> <p>2017年3月23日に14号館で開催。講師として福島大学うつくしまふくしま未来支援センター（FURE）特任教授の天野和彦氏を迎えた。参加者は19名（学生10名、教員9名）。</p> <p>参加学生は、災害ボランティアとして活動している学生である。</p> <p>天野氏らFUREで開発した大規模避難所運営シミュレーションゲーム「さすけなぶる」を用いたワークショップをおこなう。4班に分かれ、3時間かけて4つの課題に対して班ごとに対応策を提出。参加者全員での意見交換を行った。</p>
具体的な成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークショップは既存の教室（1422教室）で開催したが、クマガクGPにより購入したプロジェクタとホワイトボードの導入で、快適かつ効率的なワークショップ開催ができた。プロジェクタでの投影とホワイトボードを併用した、ワークショップでの展開が可能となり、参加者の意見共有がおこないやすくなった。 ・今回のワークショップは4つの課題（「新聞屋と呼ばれた人たち」、「避難所に食料をもらいに来た人」、「足湯ボランティアでの「セクハラ」」、「あの人がいるから行きたくない」）について各班に分かれて議論をおこなった。やり方としては、学生のみを2班、教員のみを2班とした。学生と教員とを一緒に班にしなかったのは、経験豊富な教員の意見と、学生の意見とを分けるためであった。ワークショップの進め方としては、まず、「ケース」が紹介され、それに対して個人で対応策を考えることが求められる。その後、班内で議論をおこない、班としての意見を集約。そして、全体に向けて発表という順序であった。その後、各班の中で、良いと思われるものに投票がおこなわれ、ファシリテーターの解説が入るといったやり方であった。 ・「さすけなぶる」は、そのサブタイトルに「あなたの人生がマニュアルになる」とあるように、これまでの各人の人生経験が反映されるため、学生の班内でも様々な考え方が表れ、新たな気づきが生まれた。多様な意見があることや、教員の考え方を聞くことにより、多くの学びが学生にあった。 ・ワークショップは「大規模避難所運営」がテーマであるが、「さすけなぶる」の根底にあるのは、人権を守り、命を守ることである。これは、避難所のみならず、災害ボランティアに共通する視点であると言える。参加学生はこれらの基本となるコンセプトを理解する事ができたと言える。今後の彼らの災害ボランティア活動に役立つものとなった。 ・こうした成果を受け、今後もボランティア活動の向上に向けた、研修活動をおこなっていく。

（高木）